

長江展に寄せて

書には、人格が表れるというが、逆に、書の修練が人を形成してゆくともいえよう。

此度、乾長江先生翰墨展が開かれる由、衷心よりお祝いを申し上げ度い。

先生は、常に、書を内省養神の具であるとされていた。

今、ここに長い沈黙を破つて、その作品を世に問われるのも長江先生らしいと思う。先生の略歴を御紹介する。

昭和三十九年三月

淡江會

慶應義塾大学書道会
O・B有志他

長江略歴

明治三十九年台湾台北に生る

名は丈夫、(大阪府)

法政大学経済学部卒業

書法は、父淡江、母玉江に学ぶ

昭和七年淡江書法による教育映画文部省認定「習字法の科学的解説」

及び中等学校習字帖をつくる

昭和七年より同十八年に至る慶應義塾大学書道会、法政大学書道会、文化学院

法政大学高等商業部講師

昭和十三年より同十九年に至る臨時東京第一陸軍病院職能教育教官

昭和十八年より同二十年南洋興発株式会社東京事務所勤務、同二十年より

同二十二年に至る南洋興発関係戦後処理業務

昭和二十二年より同三十四年に至る株式会社後楽園スタジアム、昭和三十四年

より同三十八年株式会社フタバヤラケット製作所勤務

昭和三十七年教育映画「書法」を製作

昭和三十七年より現在に至る東洋大学文学部講師

昭和三十八年より現在に至る株式会社後楽園スタジアム嘱託

昭和三十九年現在慶應義塾大学書道会顧問